

神奈川県内における中世前期の生活と流通

公益財団法人かながわ考古学財団
山口 正紀

はじめに

日本の中世とは、鎌倉時代から戦国時代までの範囲を扱った区分です。この約400年間は、さらに前期と後期に分けて区分され、南北朝時代を挟んで時代の変化があります。前期は源頼朝が鎌倉入府した1180年より南北朝時代まで、後期は南北朝時代から戦国時代までです。ここでは、12世紀末～14世紀にかけての神奈川県について、遺跡の発掘調査事例を中心に当時の生活に関わる日常的な場面とどのように暮らしていたのかを紹介します。

1. 神奈川県内の中世遺跡〔概略〕

川 崎

北部主体に遺跡が点在。墓関係、小規模な遺構や少量の遺物で希薄。約 30 地点。

横 浜

やぐらが多く、地下式坑や墓関係の遺構が目立つ。そのほか城郭関係を含む約 70 地点。

横須賀三浦

都市鎌倉（12 世紀後半～15 世紀前半）。主に横浜市南部～三浦半島にかけて「やぐら」が存在。鎌倉以外はやぐらや寺院中心。そのほか農耕関係の遺跡が少数。鎌倉を除くと約 80 地点。

湘 南

海側に集落、山側に屋敷地の分布傾向がみられる。12 世紀後半～15 世紀。約 50 地点。

県 央

相模川など河川流域に集落が集中し、台地状には屋敷地や城郭がある。主に 12 世紀後半～13 世紀代、15 世紀代に遺構が確認されている。約 170 地点。



神奈川県の行政区分

県 西

小田原市は戦国時代以降が主体。山北町にも城郭があるが、そのほかの市町では中世の遺構はほぼ未確認。小田原を除くと 10 地点以下。

2. 都市鎌倉・県内の中世前期の遺跡

○中世都市鎌倉

現在は鎌倉市教育委員会や民間発掘調査会社が個人住宅規模の調査を行い、毎年 20～30 件の調査が行われています。これまで鎌倉市の総面積に対して約 8～9% (35 万㎡) の面積が調査されています。鎌倉といえば幕府が置かれていたことから日本有数の中世都市として名高い地です。遺跡は中世遺構（鎌倉時代～室町時代前半期）が主体となり、三方を山に囲まれた地域（旧市街地）に多く、山の外部域になると中世遺跡の存在は数が激減します。しかし、鎌倉市内の大部分が遺跡包蔵地となっていて、中世遺跡よりも古墳～平安時代の遺跡が点在することがわかっています。



現在の鎌倉市（Google Earth から転用）

○中世前期にかかる代表的な遺跡

鎌倉・小田原以外でこれまでの発掘調査で明らかになった中世前期の遺跡は、数多く発見されていますが、その地域で当時の風景を物語る遺跡を少し紹介します。

- ・^{ひがしたほらなかまる}東田原中丸遺跡（秦野市）

12 世紀末～13 世紀頃に掘立柱建物が何度も建て直され使用されていたと考えられる重複した建物が多数発見されており、波多野氏の館跡と考えられている。

- ・^{かみなりまつ}神成松遺跡（伊勢原市）

一辺 73m、正方形を呈すと考えられる V 字状の溝が検出され、中心部に 2～3 時期の重複した掘立柱建物 11 軒が見つかり、在地領主の糟屋氏関連の方形居館と推定される。



東田原中丸遺跡 武家屋敷

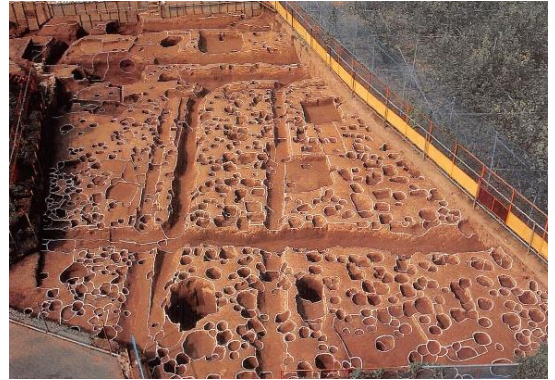
（神奈川県教育委員会文化財保護課 1990 から転載）

- ・^{みやくぼ}宮久保遺跡（綾瀬市）

12 世紀末～14 世紀の柵列や溝で区画され、掘立柱建物 27 棟や井戸 17 基などが検出され、在地領主である渋谷氏に関連した武家屋敷と推定されている。

- ・^{かみのまち}上ノ町遺跡（茅ヶ崎市）

13～16 世紀と幅広いが大規模な溝で区画された中の小規模な溝の内側に、多数の掘立柱建物や井戸が集中して検出された。屋敷跡の一部と推定されている。



上ノ町遺跡 屋敷跡
(大戸ほか 2003 から転載)

- ・^{かみはまだ}上浜田遺跡（海老名市）

掘立柱建物跡 8 棟、溝状遺構、井戸、柵列などが検出され、建物は 3 回の建て替えが行われている。13 世紀中葉～15 世紀中葉の武士階級の居館跡と推定される。

- ・^{こみやあみだばたけ}小宮阿弥陀畑遺跡（平塚市）

13 世紀後半～15 世紀の墓跡で、五輪塔群、積石塚、土壙墓、配石墓など多数の供養施設や埋葬遺構が発見されている。



小宮阿弥陀畑遺跡 中世供養施設跡（神奈川県教育委員会文化財保護課 1990 から転

- ・^{じょうぎやうじ}上行寺東やぐら群（横浜市）

丘陵の先端部に 3 段にわたってやぐら 41 基が築かれている。前面の平場には墳墓堂もしくは供養堂と考えられる建物跡 6 棟が検出された 13 世紀後半～15 世紀の中世墓跡。

3. 武士や庶民の生活

中世前期の武士や庶民は、それぞれ生活スタイルが違います。この時代を支配していた武士と庶民にはどう違いがあるのか。その生活していた背景は居住空間や使用していた食器などから窺い知ることができます。

○住居

中世前期の建物には^{ほったてばしら}掘立柱/^{そせき}礎石建物・^{いたかべ}板壁建物・^{たてあな}竪穴建物があります。

掘立柱建物は地面に穴を掘り、柱となる根本を埋め建てます。柱の下には^{そばん}礎板が置かれ、転用された木材が使われているのもあります。2 間^{けん}四方以上の柱が建てられ、4 間以上の柱がある建物は武士階級や僧が使っていた可能性が考えられます。

板壁建物とは、掘立や杭で支柱を造り、壁の板を支えた粗末な住居です。建物内部を浅く掘り下げ、外壁の裾を土中に埋め込みます。部屋同士を連結できたり、複雑な構造を持てるようになり、現代風に言えば、簡易的に建てられるプレハブに近い建物と考えられます。都市鎌倉では多様な木製品などが出土し、出向してきた工人集団が短期的に住む建物とする性格があったのではないかと考えられます。

竪穴建物は、地面に方形の掘り込みをもつ半地下式の建物です。以前は方形竪穴建築址と呼称されていました。上部構造はわかりませんが、古代以前の竪穴住居のようにカマドや周溝は作られていません。主に農民や庶民が使っていたと考えられます。掘立柱建物のように建築部材は少なく、簡単に建てられるのが想定できます。鎌倉の海浜地帯には竪穴建物が主体となり数多く検出され、庶民が暮らしていたことが窺えます。一方、同じ竪穴建物でも鎌倉では住居ではなく倉庫あるいは作業場といった使われ方もしています。海浜地帯よりも北側は御家人や武士、工人が居住していた範囲には、掘りこんだ周囲を壁板で支えるよう土台や床板を張ったりと、かなり丁寧に作られています。



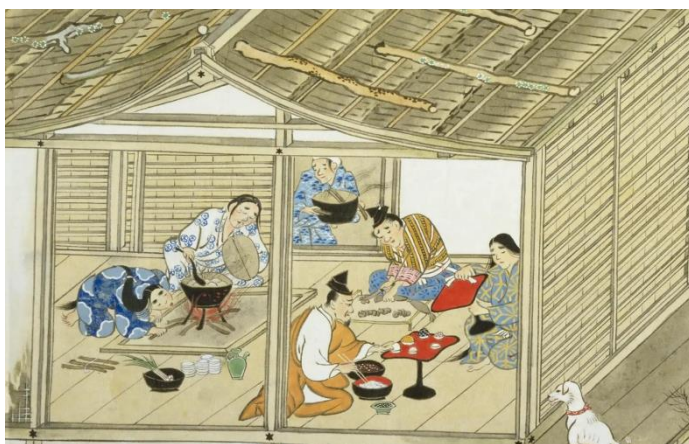
佐助ヶ谷遺跡 板壁建物
(齋木ほか 1993 から転載)



若宮大路周辺遺跡群 竪穴建物
(押木ほか 2020 から転載)

○生活に関わる食器や道具

中世の食事の風景として食膳具^{しょくぜんぐ}や調度具^{ちやうどぐ}など用途にあったモノが明らかになってきました。古代まで「土師器」と呼称している素焼きの土器は、中世になると「かわらけ」という名称を用いていますが、成形方法が簡素化した土師器皿です。さらにここに日本・中国で作られた陶器が加わり、食事の場を形成しています。いろいろな絵巻に日常生活は描かれてお



鎌倉時代の台所と食事の用意 (『春日権現記』)

(国立国会図書館デジタルコレクションから引用)

り、それらから様々な道具が使われていたことは明らかで、同様の遺物が出土しています。また、当時食べていた食物も骨、炭化物、自然科学分析の結果から明らかになってきています。



今小路西遺跡出土 食事の道具（鎌倉市教育委員会所蔵）

○都市鎌倉と流通

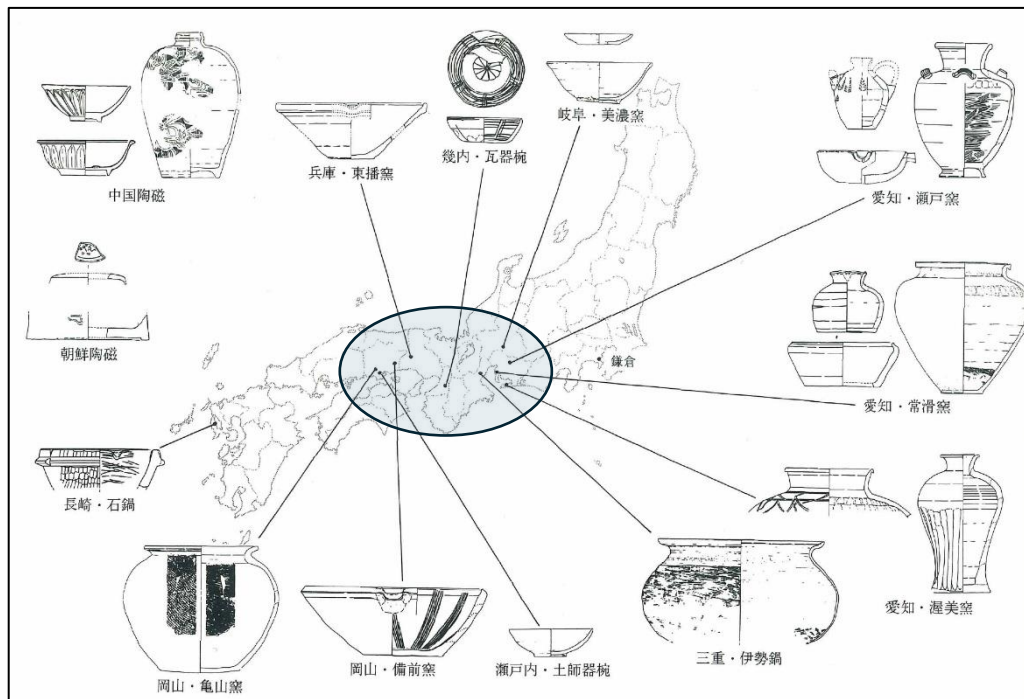
政権都市として発展していった鎌倉では、列島各地から様々なものが集まっています。都市＝人口密集地であるこ

とは、モノが集中する場、モノを消費する場となります。これは鎌倉の膨大な量の遺物が物語っており、流通という観点からも発達があったことを示しています。中世前期の神奈川県内では鎌倉を中心として、物流が発展し、そこから周辺地域に流れていった可能性も示唆できますが、現代のような物流システムがあったのかは定かではありません。対して、物流が生むものは商品と銭で、中世では銭を使う時代の始まりでもあります。遺跡に残る建築部材や上述した道具類、食料品、薪や灯明油など毎日の生活にかかせない必需品は全て値段をもった商品（現代でいう家庭菜園的なものを除く）でした。

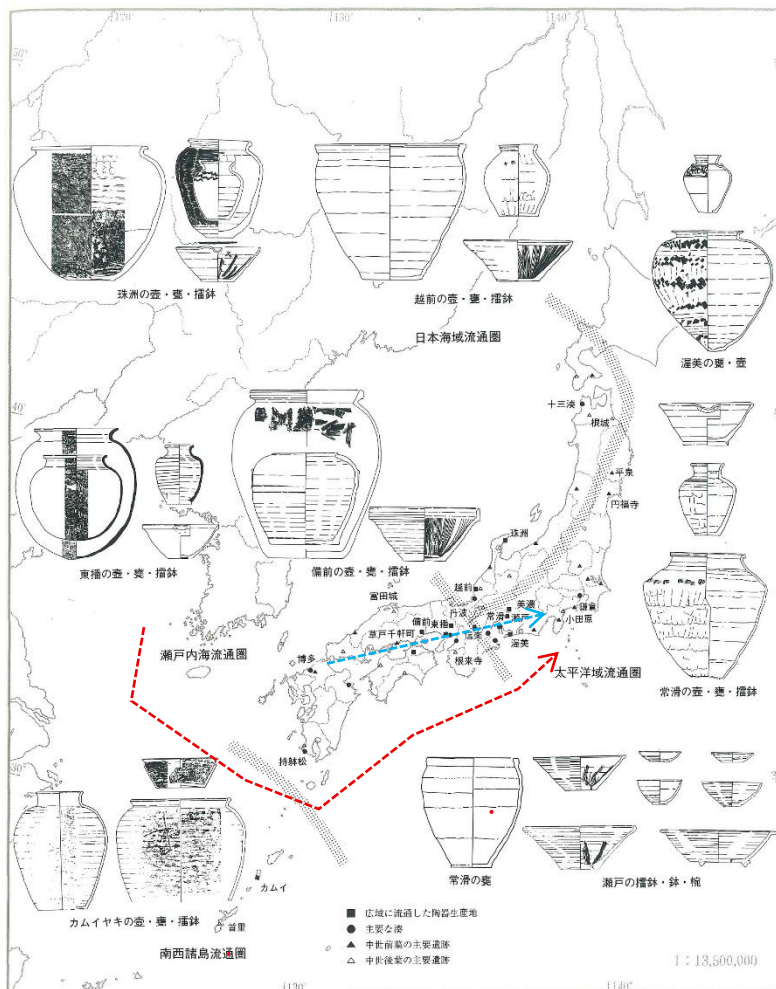
一方、消費する側である都市の生産はどうだったのでしょうか。鎌倉では多種多様な工芸品などは出土しますが、農具はほとんど出土しません。周辺の遺跡でも確認ができないことが根拠として弱いところではありますが、遺物として残存しない、あるいは本当に廃棄されているのかもしれませんが。遺跡として農地の可能性があったことは荘園の記録や近世初期などの各地の絵図からもわかります。しかし、神奈川県内では考古学的にほとんど確認されていないのが現状です。

生活の場で使用されているモノ

用途	磁器・陶器・土器	木製品	金属・石製品
食膳具	青磁/白磁/瀬戸窯碗皿鉢、山茶碗皿…	箸、漆器椀・皿・鉢、菜箸、杓子、匙…	
調理・炊事具	常滑/瀬戸窯鉢…	搥粉木、俎板、柄杓、鬼卸し…	伊勢・滑石・鉄・銅鍋
容器	青磁/白磁/瀬戸窯壺・水柱・合子・瓶子…	曲物、桶、箱、盤	銚子
調度具		折敷、盆、膳、傘轆轤…	
燈火具	燈明皿(かわらけ・白磁皿)	燭台、灯明台…	火打金
火処具	火鉢	自在鉤、灰ならし、火付け木…	火箸
装身具		扇、団扇、櫛、烏帽子…	刀子、砥石
履物		連齒/差齒下駄、草履	



鎌倉から出土する列島の陶磁器（小野 2001 に加筆）



中世における焼物の流通圏と生産地（小野 2001 に加筆）

出土した食物（一部）

獣類	鹿、猪、狸、兎、牛、馬、犬など
鳥類	雁、鴨、雉、鶏、アオサギなど
魚類	真鯛、石鯛、鮫、ウツボ、スズキ、ハタ、ブリ、マグロ、カツオ、カジキ、フグ、カサゴ、ヒラメ、鯉など
貝類	サザエ、アワビ、トコブシ、アカニシ、ツメタガイ、ヤツシロガイ、バテイラ、ダンベイキサゴ、ハマグリ、チョウセンハマグリ、シジミ、アサリなど
植物	米、粟、大豆、小豆、ソバ、瓜類、栗、胡桃、梅、桃、柿など
その他	海藻類など

4. 祭祀とまじない

中世は戦乱が続き、自然災害や飢饉が多く、疫病が発生することの多い時代でした。仏教諸派の布教対象が庶民層に広がりを見せる一方、陰陽道などの混交もみられます。寺院は禅宗が独自の伽藍配置をもち、東国には浄土庭園をもつ寺院が広まってきます。その中で祭祀・呪術では古代に続き、密教系のものが多いと文献にも見られます。秘儀的な性格をもっているが故、考古学上の遺構・遺物からは解明しづらい部分でもあります。

そういった祈りは様々で、特に「空間を分ける」場に関する行為（たとえば、外部から邪悪なものが入ってこないような寺院の結界、神社の鳥居など）や時節に関する行為（暦の節目）などがみられる。出土例としては、仏像、蘇民将来札そみんしょうらいふだや物忌札ものいみふだ、「急々如律令きゅうきゅうによりつりよう」などの呪符木簡や形代類である。形代は出土が一番多く、人形や舟形など多彩です。



北条時房・顕時邸跡出土
不動明王像（鎌倉市教育委員会蔵）



東富岡・南三間遺跡出土
猿型土製品
（神奈川県教育委員会蔵）



西富岡・向畑原遺跡出土 炭化柿
（神奈川県教育委員会蔵）



子易・中川原遺跡出土
呪符木簡
（神奈川県教育委員会蔵）

5. 葬送と供養

葬送の形態として土葬と火葬があります。実際の埋葬に際しては階層差や地域差などにより様々な変化がみられます。土葬は庶民、火葬は官人層にされていたと考えられています。普遍的な中世の埋葬方法は土葬で、木棺や甕棺など棺を使用して埋葬した場合と棺の痕跡がみられず直接埋葬される方法があります。土壙墓と称される多くは1 mほどの小規模で屈葬（足を折り曲げた状態）の形態で確認されます。

火葬は茶毘に付された後に拾骨を行い、蔵骨器に収め埋葬します。蔵骨器は金属器、陶磁器、木製の曲物などが使用されていますが、最も多く確認されているのは陶磁器です。これも流通や地域的な要素があり、西国などは中国陶磁器や備前、東播製品を使っているのに対して、鎌倉では瀬戸瓶子や梅瓶、常滑窯壺が使用されています。

葬送・供養する場はどこなのか。鎌倉にはやぐらと呼ばれる直方形に掘りこんだ横穴が多数みられます。一説には仁治三年（1242）に大友氏の所領（豊後、現在の大分県）で、「府中に墓所を作らない」という法令が出されています。鎌倉幕府の一般的な法令であったと考えられ、これにより平地に墓所を作ることができなくなり、崖裾に墓所を構えたと推測されています。また、鎌倉の海岸地帯には下層の人々と思われる人骨が検出され、武士や御家人が住む範囲内は墓地が形成されていません。海岸地帯と区別されていたことがわかります。



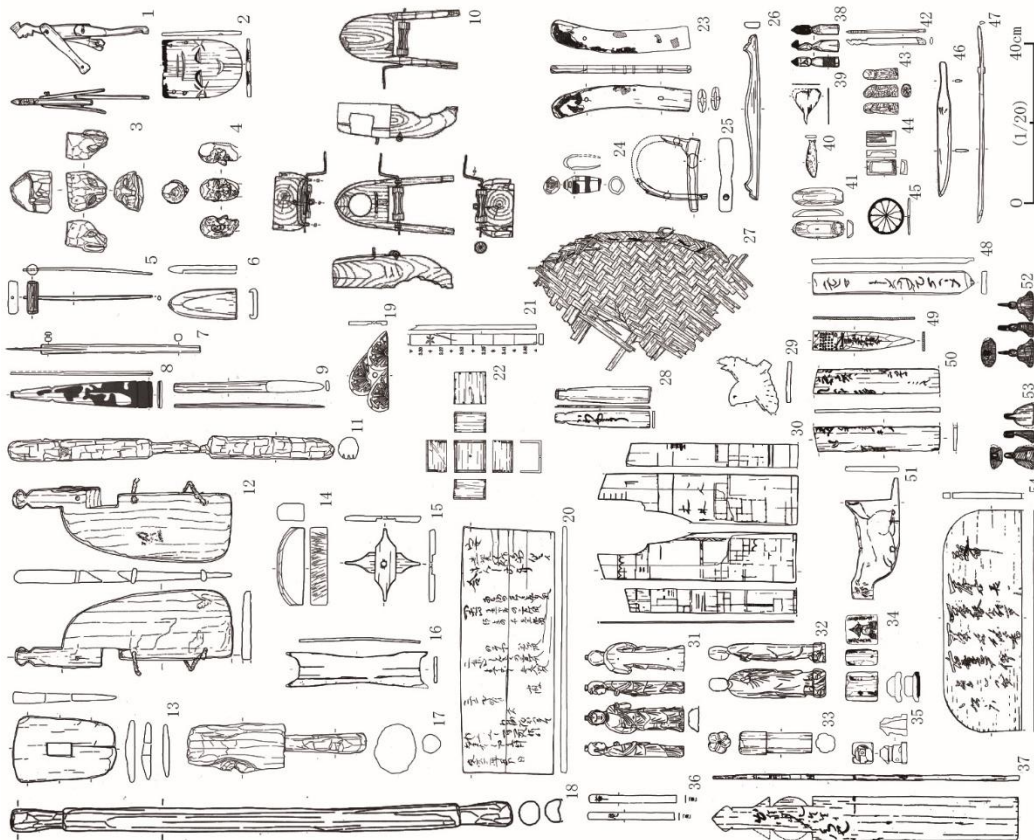
国指定史跡まんだら堂やぐら群（筆者撮影）

おわりに

中世前期の生活は武士と庶民には格差があり、出土遺物や遺構がそれを物語っています。特に都市遺跡がある地域は全国的にも限られ、圧倒的な物量をもつ都市鎌倉とその周辺とでは、多大なる差により生活規模を比較することが容易ではありません。神奈川県内の中世前期は一時代を中心であり、それを理解した上で地方との関係性を考えていかなければなりません。近年の調査で、伊勢原市の大山山麓に広がる荘園遺跡が発見されています。これまでは屋敷や寺院、墓など個々の性格をもつ遺跡の調査成果に限られてきましたが、屋敷や寺院など一体性をもつ遺跡が明らかになったことは、都市と地方の関係性をより綿密に比較検討でき、今後の神奈川県内における中世前期の課題となってくるでしょう。

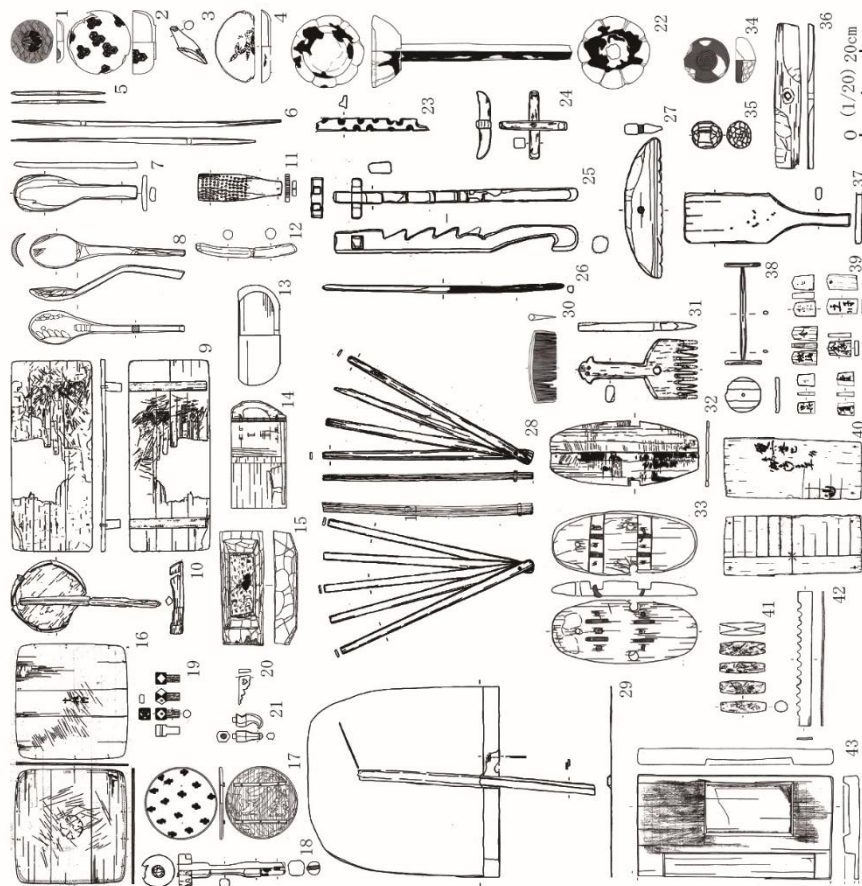
引用・参考文献

- 押木弘己ほか 2020「若宮大路周辺遺跡群（No.242）小町一丁目 333 番 2 地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 36（第 1 分冊）』鎌倉市教育委員会
- 小野正敏編 2001「図解・日本の中世遺跡」財団法人東京大学出版会
- 神奈川県教育委員会編 1979『神奈川県埋蔵文化財調査報告 15 上浜田遺跡 本文編』
- 神奈川県教育委員会文化財保護課 1990「神奈川の遺跡」株式会社有隣堂
- 菊川英政ほか 2008「今小路西遺跡発掘調査報告書－御成町 171 番 1 外地点－」（株）斉藤建設（文化財事業部）
- 河野真知郎 1995「中世都市鎌倉 遺跡が語る武士の都」講談社選書メチエ 49
- 公益財団法人かながわ考古学財団編 2024『足元に眠る神奈川の歴史』有隣堂
- 齋木秀雄ほか 1993「佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）発掘調査報告書－第 1・2 分冊－」佐助ヶ谷遺跡発掘調査団
- 財団法人かながわ考古学財団編 2010「掘り進められた神奈川の遺跡 旧石器から近代まで」株式会社有隣堂
- 穴戸信悟ほか 2003「上ノ町遺跡 一般国道 468 号線（さがみ縦貫道路）西久保ジャンクション建設事業に伴う事前調査」かながわ考古学財団調査報告 143 財団法人かながわ考古学財団
- 村松篤ほか 2020『東富岡・南三間遺跡第 2 次調査、東富岡・北三間遺跡第 3 次調査、東富岡・東之窪遺跡』かながわ考古学財団調査報告 322
- 山口正紀 2015「中世都市鎌倉の木の利用と役割」『木材の中世－利用と調達－』考古学と中世史研究 12 高志書院
- 山口正紀 2022「神奈川県伊勢原市大山山麓に広がる中世前期の荘園遺跡」『貿易陶磁研究第 42 号』日本貿易陶磁研究会



1. 傀儡人形 2. 面 3・4. 木偶 5. 木槌 6. 槍鉤鞘 7. 錐 8. 刷毛 9. 篋 10. 墨壺 11. 杵 12. 鋤
13. 瓢 14. えぶり 15. 糸巻 16. 秤 17. 砵 18. 張手棒 19. 板締型板 20. 結番交名 21. 物差し
22. 杵 23. 刀鞘 24. 鐺 25. 鼻輪 26. 野杓 27. 籠 28. 荷札 29. 飾り板 30. 指図 31・32. 仏像
33. 軸飾 34. 印判 35. 木塔 36. 柿経 37. 塔婆 38. 人形 39. 鳥形 40. 魚形 41. 舟形
42. 人十陽物 43. 陽物 44. 硯形 45. 車輪形 46. 包丁形 47. 刀形 48. 斎串 49. 呪符 50. 木札

鎌倉で出土する木製の道具類 (山口 2015 より抜粋)



1. 碗 2. 皿 3. 鉢子 4. 鉢 5. 箸 6. 菜箸 7. 板杓子 8. 壺杓子 9. 組板 10. 柄杓 11. 鬼印し
12. 播粉木 13. 壺 14. 曲物 15. 羽物 16. 折敷 17. 盆 18. 傘轆轤 19. 栓 20. 雲形 21. 脚 22. 燭台
23. 火鑪板 24. 灯明台 25. 自在鉤 26. 火付木 27. 手押木 28. 扇子 29. 団扇 30. 櫛 31. 堅櫛
32. 草履 33. 差齒下駄 34. 独楽 35. 木球 36. トンボ 37. 羽子板 38. 車輪 39. 将棋駒 (縮尺 1/12)
40. 双六盤 (縮尺任意) 41. 筆管 42. 筆架 43. 硯台